

## 山陰ワイド

Keizai &amp; Seiji

## 経済政治

いた。

電球や蛍光灯よりも消費電力が少なく、市場拡大が見込まれる発光ダイオード(LED)。製造、販売を手掛けるトリコン

(島根県邑南町)が、独自技術を持つメーカーの強みを生かし、応用商品の開発にも力を入れている。照明分野での需要は、まだ1%程度とされ、次世代の照明として期待されるLED。その可能性を追究する上田康志社長に、取り組みと展望を聞

## トリコン

## 上田 康志社長

「LEDを、ただ並べているだけの照明では面白くない。もっと遊び心を、と誰でも加工できる軟質の樹脂製の電球を開発中だ。三六〇度の面発

光が可能で、既に、引き合いが来ている。プロのデザイナーの仕事だった光のデザインが自分の感性で、色も、明るさも、音と組み合わせる。それらを見据え、

「照明としてだけでなく、応用の幅が広がっているようだ。」  
「今まで波長や明るさをコントロールできなかったので、光が応用されがっていると感じる。LEDは、液晶のバックライトや冷蔵庫、冷凍庫の照明にも使われるように、」

「環境やエネルギー問題が来ると、負荷の課題を考えると、LEDが必要からない、LEDが必要という社会的要請が来り開く秘訣(ひけつ)、企業の役割は。」  
「ただぼほほで何でも食らいつくことが大事。できそうかどうかというものは、とりあえずやってみる、作ってみる。作ったものがコロコロ転がり、一人になった。あと五年、十年たつと、電球や蛍光灯を超えると考えている」

## 次世代照明の開発に力

「LEDを、ただ並べているだけの照明では面白くない。もっと遊び心を、と誰でも加工できる軟質の樹脂製の電球を開発中だ。三六〇度の面発



うえだ・やすし 1992年、三洋電機(大阪府守口市)から社長に就任。父・春人さんが社を継いで、2000年4月、トリコンを設立。島根県邑南町中野。50歳。

「これから先、単体の製品・装置だけでは、大きく発展するのは難しい。地域に貢献する、という製品・装置を作ることが、できる強みを優位に活用していくべきではないか」

「これからの時代、勝つためには、地域に貢献する、という製品・装置を作ることが、できる強みを優位に活用していくべきではないか」

## 経済人往来

◆56◆

